

第4号様式(第10条関係)

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第8回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会
開 催 日 時	平成21年 1月 16日(金)午後2時 ~ 4時
開 催 場 所	緑が丘ふれあいセンター男女共同参画センター学習室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：(委員)荻原恵子、鴻田臣代、内野登志子、清野智美、宮川文、 鈴木寿子、矢口幸恵、浜浦秀行、栗原誠 (欠席)三浦千恵子 (事務局)木村主査、橋本主事
議 題	1 報告事項 (1)第5回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (2)その他 2 議 題 (1)情報誌「YOU・I」第17号の発行について (2)第9回YOU・Iフォーラム及びワーク・ライフ・バランス講演会 を振り返って (3) その他
結 論 (決定した方針、残され た問題点、保留事項 等を記載する。)	1 報告事項 (1)第5回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について 第5回男女共同参画推進市民委員会の会議の結果について報告。 (2)その他 2 議 題 (1)情報誌「YOU・I」第17号の発行について ・「仕事編」については、事務局が編集する。内容は、再就職について の記事を中心にまとめる。 ・ゆうあい後記については、1月中に事務局に送付する。 (2)第9回YOU・Iフォーラム及びワーク・ライフ・バランス講演会を 振り返って ・YOU・Iフォーラムについては、来年度は時期を改めて考える。ま た、PR方法やPR期間も検討していきたい。 ・ワーク・ライフ・バランス講演会は、講師の体験に基づく話だったの で、分かりやすかった。もっと多くの人に聞いてもらえるように、P R方法を検討する必要がある。 (3)その他 ・第9回市民委員会は、平成21年2月13日(金)午後2時から開催。 ・第10回市民委員会は、平成21年3月23日(月)又は3月24日 (火)のいずれかで開催予定。
審議経過 (主な意見等を原則と して発言順に記載し、 同一内容は一つにまと める。)	1 報告事項 (1)第5回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (事務局)第6回、第7回会議は講演会だったため、第5回男女共同参画 推進市民委員会の会議の結果について報告。 - 質疑・意見等 - 特になし。 (2)その他 - 質疑・意見等 - 特になし。

2 議 題

(1) 情報誌「YOU・I」第17号の発行について

(事務局) 委員から提出された原稿を基に編集し、仮の情報誌の原稿を作成した。「仕事編」のところは、委員から原稿をもらったが、男女共同参画とつなげるのが難しかった。市内の中小企業で、ワーク・ライフ・バランスのような取組をしている企業はなかなかなく、また特定の企業を掲載するのはどうかという話も事前にあった。担当委員から、『まいど～武蔵村山』の宅配事業についての記事の原稿をもらい、地域のことにつながるとともに、武蔵村山のいいところにつながると思った。しかし、その事業を「仕事編」の主として掲載するのではなく、今女性の労働力が求められているので、女性の再就職にスポットをあて、資格を生かせる職場を特集したらどうだろうか。例えば、ホームヘルパー2級を取得する女性も増えていて、介護施設は女性の職員も多く、全体的には働きやすい職場にあるともいえると思う。また、募集も多いので、就職しやすい環境にあるのではないかと。そこを、男女共同参画の女性の再就職につながると考えた。

(委員) 武蔵村山市の企業ではなく、女性の仕事をとり上げるということか。

(事務局) 一度退職しても、資格を持っていれば、再就職しやすい。資格を生かせる職場として記事にしたらいいと思った。特集として、出産編があり、仕事編として介護施設の職場を載せたら、赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代がかかわる特集となるのではないかと。

(委員) 男性も女性もいる職場なのでいいと思う。市では、ホームヘルパー2級の養成講座をやっていて、費用を市で半分助成してくれるということで、応募者も多いと聞いている。

(事務局) 市のホームヘルパー2級の養成講座については、調べてみる。

(委員) 仕事編については、事務局でまとめてもらえるか。

(事務局) 再就職についての記事は、事務局でまとめる。また、「まいど武蔵村山」の記事と、本日委員から夫婦でやっている良さの原稿をもらったので、まとめとして盛り込んでみようと思う。次回の会議までに原稿をまとめるので、そこでまた委員から意見等をもらえたらと思う。

(委員) 法人会についてまとめたので、企業の中で家族ぐるみで頑張っているところを一言いれてもらいたい。

(事務局) 法人会についてもうまく今回の内容と合致させ、特集の1ページに「仕事編」をまとめられるように編集したいと思う。

(委員長) 特集の記事をまとめてみての感想を各委員にお願いします。

・「はじめに」を担当して

(委員) 自然のよさを誌面にするというので、地図を取り入れたりすれば分かりやすいかと思った。

(委員長) 武蔵村山市の良さは、自然があり空気がいいとなる。住んでいるの利便性とは違い、ふと思えば浮かぶのは、自然環境の豊かな大切なところであることを実感する。すぐ近くに、いろいろ体験できるところがあるのはいいことだと思った。

(事務局) 記事のスペース的に地図を載せることが難しかったので、写真付で自然豊かなところを紹介して載せる形式にしたが、どんな写真を載せたいだろうか。

(委員長) 子どもがいる人に向けて、アスレチックや池がある自然いっぱい

いなところの写真がいい。

・「出産編」を担当して

(委員) 出産編で担当を分け、手当について記事をまとめた。今はインターネットで調べる人が多いと思い、インターネットからの調べ方に着目した。申請用紙がダウンロードできたりと便利だが、多くの情報の中から、自分の必要な情報を抽出するのは大変だと思った。

(委員長) 記事にあるが、マタニティキーホルダーが配布されているのは、知らなかった。

(事務局) 担当委員からマタニティマークについて、載せたらどうかといわれたので調べたところ、市では、母子手帳交付時にマタニティキーホルダーを配布している。しかし、まだホームページには載っていない。

(委員) ホームページの文章が硬いので、理解に時間がかかる。

(委員) ホームページの更新は、どこかに頼んでいるのか。

(事務局) それぞれの課で原稿を出し、秘書広報課で担当している。各課の担当がまめにチェックをすれば、すぐに更新できる。

(委員長) マタニティマークの絵を入れたら、分かりやすいのではないかな。

(事務局) 赤ちゃんを包み込むお母さんの絵なので、マタニティではない人に知ってもらうためにも、入れたいと思う。

(委員) 武蔵村山病院に直接話を聞きに行き、資料等ももらった。自分が出産したときに比べ、医療も進んでいて、設備も新しくなり、費用の面でも上がってきているようである。健診に来ない人も多い等の問題もあるので、今回の特集記事を読んでもらい病院に行ってほしいとつくづく感じた。

(委員) 産婦人科の診療時間も載せたらどうか。

(事務局) 調べて掲載したいと思う。

・「仕事編」を担当して

(委員) 中小企業では、男女共同参画というのは難しい話だと思った。そこで、夫婦で商売をしているというのが唯一の共同なのかと思った。逆に小さな商店の人は、そこを売りにしていくのかと思う。今の時代、価格だけで人が動いている傾向にあるが、セルフサービスという便利さだけを追求するがために、人の心の部分がまるっきりない社会になっているので、もう一度原点に返って隣近所の人たちと付き合えるような社会になってもらえたらと思う。そうすれば、いろいろな問題が減っていくのかと思う。

(委員) 中小企業が多いので、産休が充実していて、保育施設を完備しているところ等を見つけるのは厳しいと思った。そこで、武蔵村山市の商店、企業、法人たちが加入している団体が2つあるので調べた。地域と消費者の方が魅力ある商店として、お互い共存しあわないといけないと感じた。まちの商店は、利便性も高く、またお互いを育てていくと思う。商工会と法人会のサービスをクロージアアップしてみても、関連性はどうかと事務局に提示した。男女共同参画とは別ではなく、夫婦を含め家族で経営している企業もあるので、それを理解しあっていたらいいと思う。

・「自治会編」を担当して

(委員) 自治会に関する問題は大きく、まとまらなかった。2年前に夫が自治会長をし、ある程度自分もその中に入っていたが、大きな問題だと思うだけで終わってしまい、解決策が見つからない。

- (委員)やはり武蔵村山市のいいところと自治会のつながりを考えたが、つながらない。
- (委員)こういうのがあるというのを知らせるだけでも違う。自治会活動をやっている人には当たり前と思うことでも、新しく引っ越してくる人には分からないので、知ってもらうだけでも、この記事には意味があると思う。
- (事務局)「仕事編」のときにも話にあったが、身近な商店だと顔の見えるつき合いができて、地域力向上につながると思う。また、地域力を向上させるために、自治会もつながるのかと思う。この情報誌を、地域力向上の流れにそっていけばいいかと思う。
- (委員)うちの自治会では、年末になると「火の用心」ということで、町内をまわっている。
- (委員)今月に入っても、うちの自治会はやっているが、いいことである。カチカチと聞こえると、風流でとてもいい。中には、途中でお茶を出してくれたり、声をかけてくれる。
- (委員長)そういうことを地域それぞれで感じられるのがいい。
- (委員)以前は自治会も活発であった。近所の方に不幸があり、煮炊きするところがないということで、家を貸し拠点にしたところ、それをきっかけに近隣10軒くらいが交流できるようになり親しくなった。一つのものに向かって助け合うことが大事である。
- (委員)食卓を囲むというのいい。
- (委員)自治会で集まる集会所があるということも大きなことである。
- (委員)この委員会にしても何回か会合をもっているが、それだけで他に交流がない。顔を見たら分かるが、どういう人かは全然分からない。しかし、一緒に食事をしたりすれば変わってくると思う。
- (委員)自治会でも、いろいろな年代の方と接せられ、いい情報も入ってくる。それも自治会のいいところである。
- (委員)夏祭りは、もう10年以上出ているが大変である。その時期は旅行には行かないでほしい、体調を整えてほしいと言われている。お互い貸し借りなので、夏祭りに出ないといけない。なので、古い地域は大変である。
- (委員)うちの自治会は、以前は2日間夏祭りを開催していたが、近隣から騒音の苦情が出たので配慮したのか、大変だからかは分からないが1日になった。逆に1日になり負担は減るかもしれないが、つながりや関係性は悪くなるのではないかと感じた。
- (委員)役員の方は大変であるが、近所に住んでいても、そのときくらいしかゆっくり会う機会はない。コミュニケーションや顔合わせの意味では、いいと思う。
- (委員)高齢化が今重大問題で、自治会の後が続かない。後がいれば、お互い張り合いができていいと思う。
- (委員)地域のつながりが大事である。
- ・「最後に」を担当して
- (委員)年末から、今回記事にした2人以外にも「こうなったらいいのにな」ということを聞いたが、住んでいていい点は、自然が多いからや子育てしやすいからという意見が多かった。ただ、通勤するには不便であるという声も多かったが、住んでいて満足に感じている人が大半であった。いいまちと思っている人が多く、特にふれあいセンターを利用している人は、老人福祉館もあるので友達がいっぱいいるからいいとの声が聞かれた。市民の声がいっぱい聞こえるまちになるといいと思う。

- (委員長) 特集については以上だが、その他のページについての説明をお願いする。
- (事務局) 講演会の結果報告を載せ、そのときにとったアンケートの感想をいくつか載せた。空欄箇所がまだあるが、本日の委員会の議題2で話し合うので、それを経て改めて考えたいと思う。図書の紹介は宮川委員が担当してくれた。また、ふれあいセンター紹介文は、清野委員が今年度実施した事業の報告としてまとめてくれた。また、今空欄になっている「ゆうあい後記」についても、前号同様に一言を1月中に事務局まで送付していただきたい。
- (2) 第9回YOU・Iフォーラム及びワーク・ライフ・バランス講演会を振り返って
- (事務局) 平成20年11月30日に第9回YOU・Iフォーラムを開催したが、準備段階や日程等を含め、次回開催につながる感想をいただきたい。
- (委員) もっと聞いてくれる観客が多いと思った。大ホールの音楽祭と重なってしまった関係で、参加することができないという声も多かった。時期も今までは3月に開催していたので、毎回参加していたのという意見もいただいた。話もせっかくよかったのに、もっと大勢の人に聞いてもらいたかった。大ホールと小ホールの時間がかっちりあってしまったことは残念だった。
- (委員) 時間帯が重なってしまったことで、入場者が少なく田宮先生にも申し訳なかったと思う。話の内容は素晴らしかったなので、もっと多くの人に聞いてもらいたかった。
- (委員) 一番聞いてほしかった世代が少なかったので、アンケートにもあるように広報手段がいろいろとあるということで、小学校等に積極的に行けばよかったと思う。
- (委員長) 大ホールと小ホールの開始時間が2時間でもずれていたらよかったと思う。小学校に行くなど、PRの方法があったと思う。また、無料だけどチケットがあれば、これを持って参加するという意識が出てくると思う。プレゼントとして、シャープペンシルをあげるなら、「粗品引換券」として引き換えるのはどうだろうか。時期については、11月開催のよさもあって、今回の学びが生かすことができるのはいい点だと思う。今度はこういう話を聞きたいとか、人を集めるためにはこういう呼びかけをしようとか出てくると思う。情報誌に宣伝もでき、結果報告もできることはすごく良かった。講演内容は、1秒の大切なことばを聞いて、1秒で言える言葉は5文字と聞いて、それから意識するようになった。
- (委員) 講演会の申込みの連絡は市役所にいっていると思うが、翌年にその人たちにチラシを送付し広報する等すればいいのではないかと考えた。
- (委員) PR期間が短かった。講演会等があれば、長い期間ポスターがはってあったりすることが多いのに対し短かったと思う。男女共同に関する講演かと思っていたが、やや違う方向の話に感じた。
- (委員) ポスターの写真が、提供されたものだから仕方ないと思うが、目立たずもったいなかった。内容も最後は良かったと思うが、もっと男女共同に関する講演のほうが、やはりYOU・Iフォーラムには合っていると思う。
- (委員) 呼び込みはしたが、大ホールと重なってしまうとみんなそちら

	<p>に行ってしまったので、今回の人数はあてにならないと思う。自治会へのチラシが、もっと早い段階でできていればよかった。</p> <p>(委員) 呼ぶ人にもよるが、今回の講演のように、子どもや子どもの教育に関する話のときは、教育委員会後援となっていれば、各学校にも配布しやすいかと思う。</p> <p>(委員長) 11月だと準備が忙しいなら、1月又は2月上旬くらいならいいのかと思う。</p> <p>(事務局) 今回のことで、ホールを予約するときに大ホールの状況も確認する必要があると思った。また、この委員会が始まるのが6月くらいからなので、11月開催がギリギリだったと思うので、1月の開催がいいのかとも思う。または、午前中からホールはあいていたので、時間を早めて午前中の講演でもいいのかとも思う。</p> <p>(委員長) 今回時期を変えた結果として、見えてきたこともあるので、次回につながると思う。</p> <p>(委員) 講師には、こういう視点で講演をお願いするということを伝えられるのか。</p> <p>(事務局) 男女共同参画の講演会ということは伝えるが、講師ができるテーマは決まっているので、その中で選ぶことになる。</p> <p>(委員) 人を集めるのが主なのか、適した講師を呼んで興味を持った人が参加することがメインなのかをはっきりさせることが難しい。</p> <p>(委員) 身近な人の中で、1人に限らず何人かの人で、地域の中での自分の体験や自分が変わった部分を話してもらうのもいいかもしれない。</p> <p>(委員) 地域の人がパネリストで3～4人いて、コーディネーターがいて、武蔵村山市の男女共同をからめたテーマについて話し合えば、予算もそんなにかからずできるのではないかと思う。ステージに出ている人が知っていれば、見ている側も嬉しいと思うし身近に感じられると思う。</p> <p>(委員) 講演会は無料でないといけないのだろうか。例えば、ワンコイン料金とかはどうだろうか。</p> <p>(委員) 無料でないとは集まらないと思う。よっぽど、その人に興味や関心がない限り、お金を出してまでは来ないと思う。</p> <p>(事務局) 今出た意見を参考にし、来年度に生かしたいと思う。</p> <p>(委員長) 次にワーク・ライフ・バランス講演会の感想も、参加された委員に一言ずつお願いする。</p> <p>(委員長) 自然と涙が流れるような話もあってよかった。子どもを育てているころの自分の気持ちを思い出し、今自分はどうしたいのか考えることもできた。講師の娘が結婚するときに、その婚約者に「母親も妻にもなると思うが、自分らしく生きていくのを見守ってほしい」というのが、素敵な言葉だと思った。自分が未来に進んでいく指針を感じることができた。また、講師の妻が、自分の見た劇が大変素晴らしかったので、その劇を多くの人に見せてあげたいというような強い意識を持ち行動を起こしたら、人は大きな力を持って成し遂げられると思った。自分がそうしようという思いは大事だし、そうすることによって道は開ける。それが、みんなにもあるし私にもあるんだと思った。</p> <p>(委員) 講師の体験に基づく話だった。自分の年代とは男性と女性のかかわり合い方が多少違うが、今の世代にはこういう男性が必要なのかもしれない。人権という意味では、男性も女性も同等に相手を思い、尊重できるのはいいとは思っている。今まで自分の夫婦のあり</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

方に違和感なく過ごしてきたが、今の世代の方はこういうことが大事なんだと勉強になった。責任を持つというすごさも男性にはあり、尊敬している。時代において考え方を変えなければいけないと感じた。残念だったのは、講師の声が小さくて、聞き取りづらかった。

(委員)うちの夫も、男は男と自分の考えを持っている人なので、講演会を聞いてこういう男性もいるのかと思った。孫にダウン症の方がいて、「一生懸命育てていこう」という話を聞いたときは、胸がつまり涙が出てきた。講師の妻が、自分の可能性を信じ前向きに取り組んだというのを聞いて、自分ももっと可能性があるのではないかと思えてきた。人間の可能性は、年を重ねてもあり、もっと先を見ていけるのかと一番感じられた。自分の身近に感じられる話だったので、心に残ることが多かったと思う。

(委員)一時保育の担当をしていたので、話を聞くことができなかったのが残念である。しかし、講師を案内しているときに、保育室の中に入りたいたいと言っていたので、人柄を感じられた。機会があれば、話を聞きたい。

(委員)今回講演会を開催し、講師の体験であるが、理想的な話をしてくれたので心に残った。これからチャレンジしてみようという世代の方がいたり、子育て世代の人が、もっと夫に声に出して言ってみようというような勇気が持てたという声をいただいて嬉しかった。アンケートに「どうでしたか」という設問にしたら、思い思いの文章が直に伝わってきてよかった。講師の話し方もよかったし、また聞きたいという人もいた。マイクの音量が小さかったのが反省点である。

(委員)講師とまったく同じような体験をしてきているので、話を聞いていて驚いた。学生結婚をして、学生のときに出産した経緯があるので、同じ世代で、同じようなことをしてきた人がいたんだと思った。世代によって夫婦の形態は変わってくると思うが、男性はあまり変わっていないのではないかと思う。これから男の子を持った母親は、しっかりと育ててほしい。小さいときから、いいこと悪いことをきちんと教えて、自分のことは自分でやらせるようにしてもらいたい。今は、女性が変わってきていると感じている。

(事務局)自分の共通する部分があるので、聞きやすかった。夫婦そろって話を聞いていれば、講演会を通して会話をするきっかけが生まれたらいいと思った。アンケートの感想を見ても、夫にも聞かせたかった、若い世代の人にも聞いてもらいたいという声があったので、この講演会は次につながるいい講演会だったと思う。

(事務局)今回話を聞くのは2回目だったが、同じところでまた涙が出た。自分の娘が婚約者を連れてきたときに講師が言った「この娘を守ってくれとは言わないけど、この娘の自分育てをつぶさないでくれ」という言葉が響いた。最後の質問で「自分の夫を変えるには、どうしたらいいか」という質問に対して、講師が「男は言ってくれないと分からない」と言ったのが印象的である。みんな自分の中では思っているけど、叫んではいけないと押さえ込んでしまっている。だから、相手には伝わっていない。言葉にちゃんと出して伝えなくてはいけないと思った。

(委員長)それから言葉に出して伝えることにして、年末年始で夫と話をするきっかけが多々あったので、話してみると伝わるというのを

